

教 科	家庭	科 目	家庭基礎	単 位 数	2単位	年 次	1年次
使 用 教 材	図説家庭基礎 (実教出版)						
副 教 材 等	図説家庭基礎学習ノート (実教出版)						

1 グラデュエーション及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①本校の特色及び取り組みを生かした高大接続、教育課程の編成、授業改善により基礎学力の向上を図るとともに、さらなるキャリア教育の実践を推進します。</p> <p>②規律ある学校生活の中で基本的な生活習慣を確立し、時代の変化に対応できる能力の向上を図ります。</p> <p>③生徒一人ひとりの良さや可能性を伸ばし、自立した社会生活を営むことができる力を育てるとともに、生徒の自己実現を図ります。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>総合学科の本校では多様な科目開設という特徴を生かした教育活動を展開し、「産業社会と人間」を基本として3年間を見通したキャリア教育を充実させます。また、地域と連携した実習や就労体験等、地域の教育資源を活用して教養、人間性および社会性を育てます。</p> <p>①多様な進路希望に対応する選択科目を設け、資質、能力の育成に相乗的であるように教科等横断的な視点に立った指導であること。</p> <p>②学習の継続性に配慮し、主体的・対話的で深い学びが実践できるような基礎基本を重視した教育課程を編成する。</p> <p>③ICTの活用も含め、生徒個々が自身の進路希望を意識した学習態度の早期醸成と高揚につなげられるものであること。</p> <p>④学校設定科目「キャリア実習」をはじめ、科目の設定にあたり地域産業、地域の人材を生かした授業展開ができること。</p>

2 学習の目標

<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のありかた、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立のための衣食住や消費生活・環境などの基礎的な知識・技術の習得を目指します。 ・生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

5 評価基準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点の踏まえ、 ・定期考査の分析 ・レポートやワークシート、被服製作作品、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点の踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点の踏まえ、 ・授業への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は、授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元・題材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	ホームプロジェクトと 学校家庭クラブ活動	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意味と進め方について理解する。	8	・授業への取り組み ・ワークシート ・振り返りシート
5	第1章 自分らしい生き方と家族	・自分らしい生き方や、ライフステージごとの特徴と発達課題について理解する。 ・男女共同参画社会の推進について理解する。 ・家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりを理解する。 ・男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことの重要性について考え、まとめたり発表したりする。		・定期考査 ・授業への取り組み ・ワークシート ・振り返りシート
6	第6章 衣生活をつくる	・衣生活の文化に関心を持ち、理解を深める。 ・衣服素材、衣服の管理、持続可能な衣生活について考え、理解する。 ・被服製作実習を通して、基礎的な縫製技術を身につける。	12	・定期考査 ・授業への取り組み ・ワークシート ・振り返りシート ・被服製作作品
7				
8	第2章 子どもとかわる	・子どもの発達と保育の重要性について理解する。 ・子どもの健全な発達を支える親の役割や、子どもを産み育てることの意義について考え発表する。 ・子どもの福祉に関する活動を社会的問題について考える。	10	・定期考査 ・授業への取り組み ・ワークシート ・振り返りシート
9	第3章 高齢者とかわる	・高齢者とかわることの意義、高齢社会の現状と課題について理解する。 ・高齢者の心身の変化と生活について理解する。 ・高齢者をサポートするための心持ちや方法を理解する。 ・介護実習を通して、基礎的な介護技術を身につける。	6	・定期考査 ・授業への取り組み ・ワークシート ・振り返りシート
	第4章 社会とかわる	・福祉、ソーシャル・インクルージョンの考え方を理解する。 ・社会保障制度とその目的について学ぶ。 ・ボランティア活動の必要性や意欲について、話し合いを通じて考える。	2	・定期考査 ・授業への取り組み ・ワークシート ・振り返りシート
	第5章 食生活をつくる	・食生活の文化に関心を持ち、理解を深める。 ・現代の食生活の傾向を理解し、健康的で安全な食事管理ができるようになる。 ・栄養、食品、調理などについて、基礎的な知識を習得する。 ・調理実習を通して、調理の流れ、調理操作を理解し、調理技術を習得する ・災害時の食の工夫や調理について理解する。	14	・定期考査 ・授業への取り組み ・ワークシート ・振り返りシート
10				
11				
12	ホームプロジェクト	授業で学習したことを、実際の自分自身の生活にかかしてみることで理解を深める。	1	ワークシート
1	第7章 住生活をつくる	・住生活の文化に関心を持ち、理解を深める。 ・住まいの機能、住空間の計画、健康的な住まい環境について理解する。 ・ライフステージやライフスタイルに応じた住生活について考える。 ・持続可能な住まいについて理解する。	7	・定期考査 ・授業への取り組み ・ワークシート ・振り返りシート
2	第8章 経済的に自立する	・家計の構成、現代の家計の特徴について理解する。 ・生涯を見通した経済設計の必要性や、資産運用について理解する。 ・家計と国民経済・国際経済のつながりについて理解する。	2	・定期考査 ・授業への取り組み ・ワークシート ・振り返りシート
3	第9章 消費行動を考える	・さまざまな契約や主体的な消費行動について理解する。 ・近年の消費者問題を学び、問題解決のための消費者運動や消費関連の法律・制度を理解する。 ・持続可能な社会に向けて、自らの行動や選択をみつめなおす。	8	・定期考査 ・授業への取り組み ・ワークシート ・振り返りシート

計70時間（50分授業）

7 課題・提出物等

- ・年3回の定期考査を実施します。・長期休業中の課題は別途指示します。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することになります。

8 担当者からの一言

- ・「家庭基礎」は履修科目です。家庭生活や衣食住、持続可能な消費生活・環境など、誰もが生活するうえで必要となる生きるための「基礎」となることを学びます。自立に向けてしっかり身につけ、将来に活かして欲しいと思います。
- ・実習教室使用上の調整のため、単元の順序を入れ替えたり、実習の時期を変更したりすることもあります。